

コロンビア、 日本企業の投資に適した 豊かな市場

駐日コロンビア共和国大使館 特命全権大使
サンティアゴ・パルド



今年5月20日に、駐日コロンビア大使に就任したサンティアゴ・パルドと申します。前職では2011年8月よりコロンビアコーヒー生産者連合会アジア事務局長（東京駐在）を務めておりました。

大使として、まず皆様にコロンビアの現状についてお伝えします。コロンビアは人口4500万人、経済規模はラテンアメリカ地域で4番目、外国資本の受け入れにおいてはブラジル、メキシコに続いて3番目であり、ラテンアメリカ地域有数のビジネスフレンドリーな国です。

コロンビアー日本：ビジネス機会

現在コロンビアと日本の関係は最良の状態を迎えているといえます。修好111周年の歴史の中で投資協定を締結し、直近ではカルロス・ホルメス・トゥルヒージョ外務大臣によって租税条約が署名されるなど、両国は外交およびビジネスパートナーとしての絆を深めてまいりました。

6月初旬、2国間の投資および輸出機会の拡大を目的としたコロンビアー日本経済合同委員会がボゴタで開催され、私自身も日本の経営者50名とともに参加しました。本委員会は、三菱商事の小林健会長並びにコロンビアコーヒー生産者連合会のロベルト・ベレス総裁が委員長を務め、会合後のフォローアップとしてコロンビアで最も活気のある首都ボゴタをはじめ、カリ、メデジンの3都市にて、日本に関心を寄せるコロンビア人経営者約300名を招いたセミナーを行いました。

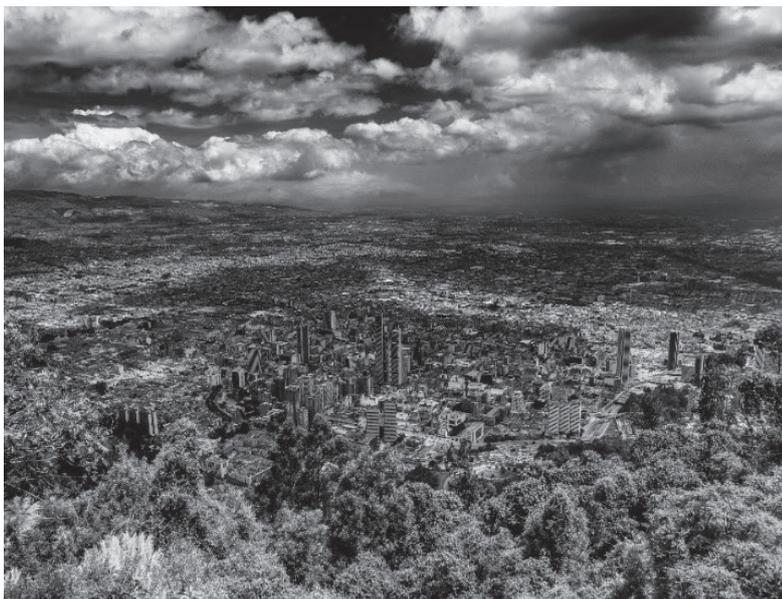
この会合中、非常に印象的で喜ばしい声明が2つありました。1つは小林委員長が、「現在コロンビアでは多くの日本企業が安全に安心してさまざまな活動を行っております…(中略)これはコロンビアの発展を証明しております」とおっしゃったことです。

現在、コロンビアにおける日本企業の数大幅に増加しています。これは、我が国の経済の安定、市場規模、ラテンアメリカへの輸出プラットフォームを我が国で設置することのメリットなどへの信頼の高さを表しています。

そして2つ目は、駐コロンビア森下敬一郎日本国特命全権大使の声明です。「両国関係は自由貿易を通じて強化を図るべきであり、そのためには官民の資金を最大限に活用し、中小企業の支援を行う、というコロンビア政府のメッセージに心より賛同いたします」

まさにそのとおりです。日本では、加工食品、健康食品、ハイデザインおよび高品質のファッション産業、クリエイティブ産業の需要が高まっており、我が国の製品を展開してゆくチャンスがあります。

コロンビアの生鮮食品の日本への輸出に関しては、現在、ハス種アボカドが承認前の最終手続きの段階にあり、鶏肉、トミー種マンゴー、イエローピタヤは日本市場への輸入が認められています。



首都ボゴタ (Courtesy: Charly Boillot)

さらに、両国のニーズと現状にかなった革新的な分野を含む2国間の経済連携協定が締結されれば貿易およびビジネスのさらなる発展につながります。年内に同協定が締結できるかどうか、両国の政府およびビジネス界が非常に注目しています。

日本からコロンビアへの投資に関して、今年だけで3件の大きな出来事が経済ニュースの見出しを飾りました。まず2019年第一四半期に新たなデジタルプラットフォーム“ラッピ (Rappi)”がソフトバンクグループから10億ドルの投資を受けました。これはラテンアメリカのベンチャーキャピタルの中で最も大きな投資であり、地域内でのラッピ事業拡大につながります。2件目はテクノロジーを基盤としたコロンビア発のホテルチェーン“Ayenda Rooms”が、3月にソフトバンクから受けた120万ドルの投資です。3件目は、コロンビア政府がソフトバンクと結んだファンドオブファンズの合意です。これにより、アントレプレナーシップ、およびオレンジ経済と呼んでいる文化産業およびクリエイティブ産業、観光業などが、コロンビア経済全体を活性化させると、大きな期待を抱えています。

有望な投資適格国 コロンビア

約1年前に経済協力開発機構 (OECD) に加盟したことにより、コロンビアは優良な公共政策と信頼のおける経済を有し、多くの投資を受け入れ、国際的にも影響力のある国としての地位を確立しつつあります。

現在、コロンビアは海外直接投資先としてラテンアメリカの中で最も魅力的な国の1つです。コロンビア中央銀行によると、コロンビアはブラジル、メキシコに次いで3番目の投資先となっており、2019年第一四半期は前年同期比68.4%の増加が見られました。これは、投資家たちの信頼が反映された結果といえます。

また、2019年にはGDPが3.5%増加しました。これはラテンアメリカおよびカリブ地域の平均成長率を上回るものです。

投資家たちにとってコロンビアは素晴らしい投資環境を有する国です。質の高い人材、多様かつダイナミックな経済部門、戦略的な地理条件を備えているほか、合法性、起業家精神、公平性という行政の柱が投資を後押しします。経済再興を促進するうえでの基盤となったコロンビアの資金調達法 (La Ley de Financiamiento) により他国に比べて税負担が軽減されたため、起業家に革新的なインセンティブを提供することができます。

租税に関する法的整備のひとつとして、レッドカー

ペット戦略 (Red Carpet) が導入されました。これは、国に大きなインパクトを与える投資を誘致するための優遇措置、経営管理、便宜の提供といった内容で構成されており、投資先としてのコロンビアを魅力的なものにしています。

今年の8月7日に任期1年を迎えるイバン・ドゥケ・マルケス大統領は、コロンビアにとってよりプロアクティブで効率的、つまり国の生産性に最大限に寄与する海外直接投資を誘致することに焦点を当てた戦略を設けました。今後中核企業が最善の操業場所として、また、大規模な投資を行う先としてコロンビアがより魅力的な場所となるように尽力しています。

FDIマーケットによると2018年コロンビアは外国企業170社の投資を受け、そのうちいくつかは新規セクターおよび地域における投資でした。また、これらの多くの企業が、従来投資が集中していた鉱山エネルギーとは違うセクターに投資をしたことも注目されます。

近年アジア圏からは日本以外にも中国や韓国などの経営者代表団の訪問を受けました。また、大統領のリーダーシップのもと、アメリカ、イギリス、フランス、スイス、スペイン、チリ、ペルー等の国で投資家たちとの会談も行いました。また、対内投資の誘致、輸出および観光を促進する政府機関であるコロンビア貿易投資振興機構 (PROCOLOMBIA) は日本事務所を構えており、コロンビアへの投資を目指す日本企業の進出プロセスを全面的にサポートしています。

以上のシナリオから、コロンビアと日本は間違いなく今後も長い歴史を育んでいくでしょう。

コロンビア貿易投資振興機構 (PROCOLOMBIA)

コロンビア貿易投資振興機構 (PROCOLOMBIA) は、世界26カ所ある拠点から各分野に関するさまざまな情報を発信しております。日本事務所はコロンビア大使館通商部として、コロンビア・日本間の貿易やビジネスを活性化するため、日本企業の皆様からの個別のご照会に応じているほか、セミナーや講演会を随時開催しております。コロンビアへの投資に関するお問い合わせは、PROCOLOMBIA日本事務所代表和合ヒロシまたは投資アドバイザー玉城瞳子まで。

代表 和合 ヒロシ

hwago@procolombia.co

投資アドバイザー 玉城 瞳子

ttamaki@procolombia.co

TEL: 03-5575-5970、FAX: 03-5575-5972